



CONTENTS

2017 年の抱負 …2 頁

しげっち／蓮華／F・H／UFO／キャロル／リネカー

特集 病地学会 …3 頁

F・H／しげっち／キャロル／リネカー／菊池春海／
山海珍味／bamboo／蛍の点滅／H・H／孫悟麺／彩日子

特集 聞こう会まとめ …11 頁

UFO／F・H／しげっち／キャロル／H・I
／bamboo／リネカー／山海珍味

日々雑感スペシャル …13 頁

UFO／山口咲子／蓮華

やまゆり園事件のこと …15 頁

猫

やまゆり園事件 学習会から …15 頁

キャロル

特別寄稿 …17 頁

山海珍味

原稿募集／次号予告／編集後記 …20 頁

おおろ



ほ
っ
と

「ほっとスペース八王子」ニュース

2017年2月号

156号

定価100円

Facebook 発行 郵便 振替 所 集 人
EHF 電 編
P I P A 集
M U R
A I R
L L X 話 人

〒192-0053 東京都八王子市八幡町一三二
042-6228-2319 ぶんくしまやビル二階「ほっとスペース八王子」（事務局：堀部 正）
042-6200-2786
http://homepage2.nifty.com/hospace/
cxb01672@nifty.ne.jp
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷三二一七
グエルドール祖師谷一〇二号室 障害者団体定期刊行物協会
https://www.facebook.com/hachioji.hospace

新年の 抱負など

2017年最初の「ほっと」発行となりましたが、新年の抱負がこんな時期になってしまつて、かなり遅れて申し訳ありません。「ほっと」はただ単に精神障がい者の施設としての情報発信源にとどまらず、読者とのコミュニケーション誌として継続して発行していきたいと思っています。今年もどうぞ、ご愛読よろしく申し上げます。

(編集部)

祈りと健康が一番

しげっち

私は2016年二度短気を起こして、入院はまだしも、お上から怒られるようなことをしてしまいました。これは、私の傲慢さからくる怒りです。だから来年は祈りを根本として、境涯を高め、少し大人になり、自分を見つめて成長していきたいです。後は健康第一でいきたいと思ひます。

健康管理と就職

蓮華

2016年は、お天気が急激に変化する事が多く、体調管理等、とても合わせるのが難しかった気が致します。疲れ易く、身体がダルくて、とても重いのので、もう少し動けるように慣れたらうれしいです。

また2017年には、絶対職に就いていたいと思います。



新年の抱負など

入院はしないように

気を付けます

F・H

私は、病院へ行くのが面倒で身体をこわして入院しました。医療費の負担の心配はなくても、医者や病院へ行く判断というのは、なかなかつかないものです。

息子や、ほっとのみなさんには心配をおかけしました。

来年も、がんばります。

今年の11月で満5年

UFJO

私は、2016年の11月で、ほっとスペース八王子に通い始めてから4年になりました。

4年も通い続けられたのは、孫悟麹くんはじめ、職員の方のおかげです。

一年を振り返ってみると、授産活動のときに、職員の方にご迷惑をかけてしまったのではないかと反省していま

います。

孫悟麹くんはじめ、職員の方、よろしく願ひします。

2017年も健康に気をつけて、体調も整え、一年間無事にほっとスペース八王子に通いたいと思います。

今年もよくよくしない!

キャロル

明るくクヨクヨしないで、ほっとには毎日来て、職員の方や会員の人とコミュニケーションを取って進んで行きたいです。

昨年と同様に努力します

リネカー

2016年の一年は夏休みも取らずに、我ながら、よく頑張ったと思う。

2017年は、またなるべく一日も休まないように頑張りたいと思います。

百馬らーめんの店舗清掃も頑張つてゆきたいと思います。

またみなさんと協力して、授産活動も頑張つてゆきたいと思ひますので、2017年の一年も一層、頑張つてゆく所存ですので、よろしく願ひ申し上げます。

特集 病地学会

去る2016年10月13、14日（木、金曜日）、練馬区の練馬文化センターほか会場で、第59回日本病院・地域精神医学会総会（以下病地学会）が行われました。「ほっとスペース八王子」からも多くの参加者が行きましたが、実際に参加してみると、精神医療の現場からの報告会といった意味合いの強い総会といった印象だったという意見が多かったです。それでも「ほっとスペース八王子」から参加したみんなにとっては、専門性の高いテーマに関わらず、得るものも多かった総会とも言えます。次回第60回総会は、長野県で開催されます（編集部）

病地学会練馬大会

F・H

私は、十月十三、十四日の二日間参加しました。

「通院以外社会参加の場を持たない方々への関わり」を聴きました。

三男が仕事にも就かず、毎日家にいるからです。他にもいくつかのシンポジウムなり分科会など聴きに行ったのですが、なにぶん専門性が高く、難しかったです。

問題の解決のヒントになるかと思って聴いていたのですが、残念ながらあまり参考になるような講座はありません

んでした。

ただ、「ほっと」のみんなと来て、お話をしながら参加できたのは楽しかったし、自宅以外で泊まるのはめったにない経験でした。

今後みんなと一緒に！

しげっち

練馬区の病地学会に行ってきました。まあまあでした。職員Yさんとキャロルさんと一緒に食事をしてすごくおいしかったし、また若い職員Yさんと一緒に食事を摂れたもうその事自体が幸せでした！

ただ少しつくづくしてしまったかも知れません。そこは少し反省したいと思います。

創価学会と病地学会は違いますが、仏法の医学性はどこまで現代医学に浸透しているのかなとも思いました。

でも私はなるべく八王子から出たくはありません。

これからもほっとスペース八王子はスクラムを組んでやっていけたらいいなと思います。

難しいが考えさせられた

キャロル

10月13日（木）、東京、練馬文化センターで地域精神医学会総会が行われました。

AM九時三十分の開会式が始まり、十時から十二時三十分まで、シンポジウムI「精神科病院を問い直す」というプログラムに参加しました。司会は、ぼくの通院している「にしの木クリ

ニック」の木村さんで、光栄に思いました。十四時～十五時二十分は、分科会「法と人権I」に参加しました。少し、難しかったです。

十五時三十分～十七時は分科会「法と人権II」に参加しました。このプログラムも、難しかったです。

十三日（木）の講演はこれで終わりにしました。

二日目十月十四日（金）、九時三十分～十一時、教育講演3「精神医学の過去・現在・未来」に参加しました。

十一時十分～十二時三十分障害者虐待防止セミナー「自分らしく生きられるために」に参加しました。

十三時三十分～十五時三十分、シンポジウムV「病院、地域精神医学の進むべき道」に参加。

全体での感想はいろいろ考えさせられ、勉強になりました。また、このような機会があれば行きたいです。



練馬区文化センター。パリのルーブル美術館みたいなピラミッドを小さくしたようなオブジェが特徴。

印象に残った夜間交流会

リネカー

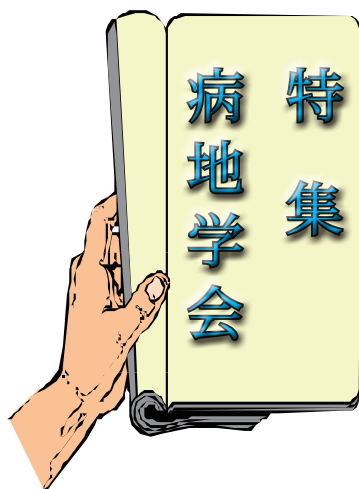
去る10月の13日・14日と練馬での病地学会に参加いたしました。

当日は多数の参加者がいらしていましたが、私は二つの講義とシンポジウムに参加させて頂きました。

一つめのシンポジウムでは、愛媛県あいなんちようの愛南町の実際のケースを紹介しており、とても興味深く拝聴致しました。

また、二つ目のシンポジウムでは、在日朝鮮人の体験が語られており、これもまた、関心のあるテーマで、なかなか興味深く拝聴致しました。

二つのシンポジウムに出席した後、丁職員と共に、夜間交流会に参加しましたが、相模原事件について、討論が行われ、私も発言いたしました。活発な議論が展開され、大変、参考になりました。



シンポジウムのような様子。大勢の参加者が来ていました。

多少納得のいかない内容

菊池春海

去る10月13・14日と練馬に於いて、日本病院・地域精神医学会総会に出席しました。

各分科会には大勢の人々が参加し、盛り上がりがありました。私は「法と人権」など二つに参加しました。結論としては、少し残念な内容でした。というのも精神科病院から入院患者を退院させるという事について、入院患者が退院したくても、受け皿がないというのが現状で、生活保護だとアパートを借りる時、何故生活保護を受けているのかと問われて、精神病というと、先ず貸してくれません。かといってごまかし

て借りても、ばれると約束が違うと言って、強制的に追い出されてしまうのです。

その点をどうすればいいのか訊いても、スタッフから良い返事が返って来なかったからです。

もう一つは精神病院を潰して、地域と共に暮らすと言われましたが、地域とは具体的にどんな人々、または団体を指すのか具体的な答えが返って来なかったからです。

交流会にも出たかったのですが、体的なこともあって断念しました。

10/14(金)病地学会参加報告

山海珍珠

10/14の病地学会は、①教育講演3(9:30~11:00)精神医学の過去・現在・未来 講師・森山公夫、②教育講演4(11:10~12:30)当事者研究から見た痛みと支援 講師・熊谷晋一郎、③シンポジウムV 病院・地域精神医学の進むべき道 ④閉会式に参加しました。

感想としては、以下のとおり。

熊谷晋一郎さんの講演が聞けて良かった。当事者研究の新たな地平を切り開いていると思う。また世界10月号でやまゆり事件について書いているのでよく読んで今後の参考にしたい。

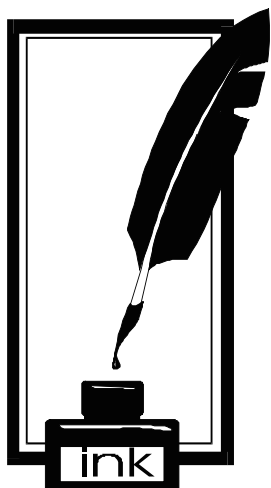
精神医療と福祉の

取り組みと現状とのギャップ

bamboo

10月13、14日に行われた病地学会で思ったことを自分なりに書いていきたいと思います。

まず、13日に行われたシンポジウムIでは、4人のシンピジストの方々が、自院の特性、周辺の地域の特性を活かした構想を出していました。また、指定発言として、実際にモデルチェンジを続けている方の話を聞き、深い内容へと繋げていくものですが、構想を出していても、実際に行われるのは、何十年先になるんだろうと感じました。それは、過疎地域でモデルチェンジを展開していくのと、都心等では、規模や社会資源のバリエーションが違うからです。今後、各地域の実情とどのように合わせて、病院と地域で連携していくか、考えていく必要があると感じました。



午後は、分科会に参加し、沢山の講師の方々、自分のテーマに沿って講演を行っていました。その中で、印象を受けたのは、鑑定・鑑定入院について考えようといった話です。

現状、「とりあえず入院処遇」といった事態から、最終的に退院後の生活を無視してしまうことが往々にしてある実情に改めて悲哀を感じました。

二日目の14日は、午前中は教育講演に参加しました。印象に残ったことは、ストレスに関する話でした。自身のストレスの元となる出来事を、思い返す際、如何に客観的に見つめることができるかによって、ストレスの軽減につながると知った時は、自分自身思うことがあり、共感性を抱きました。興味深い内容でした。また、心のストレス



が体の慢性的な痛みと関連していることもうなずける内容であると感じました。

そして、午後のシンポジウムVでは、全体のまとめとして、学会の方針をじっくり見つめ直し、各々のシンポジストがテーマを携えて発表されていました。私は、病院で働いているスタッフも貴重なインフォーマル・サポートであり、どちらかが欠けても、地域移行支援は成り立たず、当事者のニーズを多面的に捉えることは難しいと感じました。

現段階では、まだ構想中といった内容でしたので、次回までにどのくらい検証まで近づけるか努力してほしいです。



(上写真)
オープンダイアログのようす。
(イメージ)

地域精神医学会 練馬大会の収穫

蜚の点滅

学会らしく、お金のありそうな身なりの専門職が目打ち、我々は固まってきました。行けた事が画期的、ホテル使用の連日参加は立派と自負するしかありません。辛抱強く受付を待って入ると、オープンダイアログ（注）が講座に実現しなかったときになり総大会長からあり、今風の演目の押さえ処だったのだらうなと思いました。

学会というのはマユツバもので、ずさんな取り組みでも大した事と発表されたり、一時しのぎのお祭りの縁日みたいに揃える嫌いがあります。しかし、こうした意表をつく情報が集まる場で、これが欲しかったという収穫を労せずもらえる凄さがあります。

——という訳で、初日だけでもへ



ルパーさんに早くから交渉して早起きし、行って良かった私です。

圧巻だったのは、お世話になった「こらーる・たいとう」のOさんの活動が、厳しい入院体験に裏打ちされていたと知るエピソードを、語られた事です。

東京アドヴォカシー法律事務所の池原弁護士による、後見人が詐欺をおこなす条件は孤立化にある、という実に明快な真相究明も、圧巻なトークで感動的でした。

医療観察法の集会等で知り合えたこの様な方々が主催側として貢献しており、私さえ過こしやすかったのは、ほととの勉強会の歴史の賜物と身に沁みしました。大戸屋のランチもいつもよりおいしく感じられ愉しかった。

いつも必ず食後は眠ってしまう私ですが…

（注）オープンダイアログ…「開かれた対話」を意味するフィンランドで始まった精神療法。薬物への依存を減らし、対話による治療を目指す。

日本病院・地域精神医学会総会

報告書

H・H

日時：2016年10月13日（木）、
14日（金）

場所：練馬文化センター／区民・産

業プラザ Coconeri ホール

概要：13日（木）

10：00～11：15 分科会③ 外来・リ

ハビリテーション

5人のPSWや看護師の方がそれぞ

れの立場や現状からの発表があった。

11：20～12：30 教育講演2 成年後

見・意思決定支援

池原弁護士による障害者権利条約に

おける成年後見人制度についての発表

があった。

14：00～17：00 シンポジウムIV 連



第59回日本病院・地域精神医学会総会
練馬大会のチラシがこちらです。
イラストは、漫画家の吉澤ひでおさん。



この画像は「四月は君の嘘」というアニメの一場面ですが、練馬文化センターがモデルになっています。

精神医療は、さまざまな「事件」を
きっかけにいろいろ変化をしてくてい
るが、隔離や身体拘束による事件で違
法な身体拘束で亡くなった事件等の話
を新聞記者や弁護士から発表があった。

14日（金）

10：00～11：00 教育講演3 精神医

学の過去・現在・未来

精神医療の歴史を陽和病院の院長の

発表があった。

11：10～12：30 障害者虐待防止セミ

ナー 自分らしく生きられるために

虐待とは日常のちよつとしたところ

に潜んでいるということを当事者や現

場の職員から発表があった。

13：30～15：30 シンポジウムV 病

院・地域精神医学会の進むべき道

これからの病院と地域のつながり方

を当事者も含めた各分野の方々の意見

等の発表があった。

複数のシンポジウムや分科会があり、
その中から私は上記（右記）の会場に

参加した。

感想

複数の内容で会場も数か所あり、そ
の中から選んで参加したのだがテーマ
によっては難しく話についていけない
ものがあった。

私が参加した中で印象に残ったのは、
障害者虐待防止セミナーで当事者
の方が直接自分の話をしてくれてそ
の中心に虐待に向かっていたのか
ということとそれの中での人とつながり
の大事なことを話されていて今はその
経験を活かして職場でアドバイザリ
なことをしていることと言ってとても
前向きで話していった。他に同じセミ
ナーで介護士の方が自分の経験を話さ
れていたことだ。

仕事にも慣れてきたとき、自分でも



イタリア、サン・セルヴォロ島精神病院。現在では廃止され、博物館になっている。



悪名高いイギリスのブロードムーア病院。日本では医療観察法専門病棟がある。写真では分かりづらいが、厳重なセキュリティがしかれ、昔から多くの凶悪犯も収容された。

思わず起こしそうになってしまった虐
待一歩手前の話で今でもあの時のこと
を思うとギョとしてしまうということ
を誰にでも起こりうるということとして話さ
れていたことが強く心に残った。

学会というとき難しく考えすぎるとこ
ろもあったが、さまざまな分野の方
々がそれぞれの立場から発言されていて
とても参考になった。

日本病院・地域精神医学会 総会リポート

孫悟麴

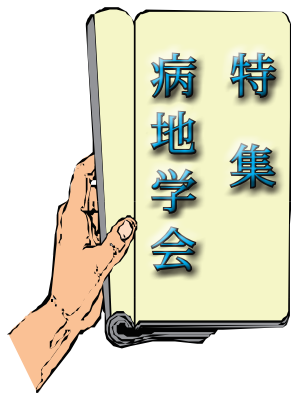
10月13日（木）練馬文化センター、

区民・産業プラザ Coconeri ホール

10：00～シンポジウムII 精神保健

福祉法からの転換

医師、精神保健福祉士（PSW）、
当事者の発言を中心に現在の精神保健



福祉法の問題を語る。

精神保健福祉法は、「障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための」法律となっています。

この法に基づいて、精神保健福祉センターを都道府県各地に設置することが義務付けられ、精神障害者の医療、保護、自立促進、社会生活復帰支援などなどを謳っているわけですが、この法の核心は、第5章医療及び保護にあると思います。この章では、任意措置入院などの手続きについて触れられていますが、要するに、この法の本質は、医療関係者の目の届く範囲に精神障害者はあるべきだということにあるのではないのでしょうか。この講座でも当事者の入院生活が赤裸々に語られました。生々しい入院生活のリアルがそこにあるのですが、実際はもっと大変であつたろうと推察されます。精神科病棟はいくつか見たことがあるのですが、急性期閉鎖病棟や保護室などは本当に悲惨です。拘置所のほうがましというレベルです。この法の反対運

ある県の精神保健福祉センター。取ってどこの県かは書きません。



一般的な精神科病棟の保護室。どの病院も似たような感じの室内。

動があるのもうなづけます。

実際、保安処分（おとう）の横行にもなっているようです。当事者の発言が終わったところで中座。

11:20～12:30 教育講演2 成年後見意思決定支援

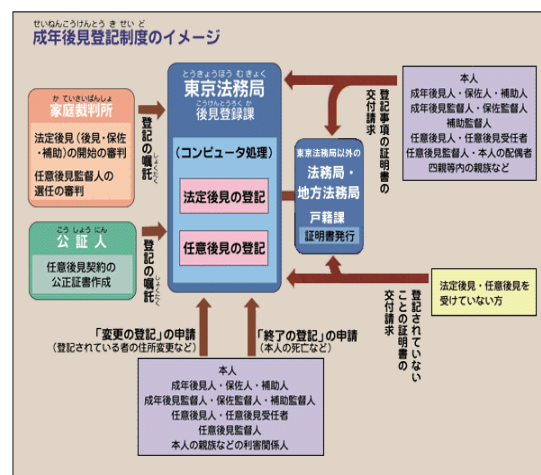
医療観察法反対でおなじみアドヴォカシー法律事務所の池原弁護士による講座。成年後見人制度は、禁治産者・準禁治産者（自力で金銭、資産等の管理が不能、あるいは著しく困難な者）制度への批判から、同制度を廃止し、できた制度です。知的障害者、認知症の高齢者、一部の精神障害者など法的、あるいは任意で資産等の管理、公的事務手続きなどを代行します。法的後見には3種類（後見、保佐、補助）があつて、それぞれできることが違つのです

が、まずできることについて段階があることにあまり意味がありません。

池原講師も何件か成年後見人を抱えておられるそうですが、現状、あまりにも被後見人ができないことが多すぎるのが問題と言っていました。当事者の意思があまりにもないがしろにされる制度に問題がありそうです。

14:00～シンポジウムⅣ 連綿と続く事件から人権を考える

7月26日の「やまゆり園事件」に続き、横浜の大口病院で高齢者が連続不審死するといったこともあり、かなりホットな講座となっていました。内容的に「ほっと」でやった学習会と被る分もありました。



まず監視カメラに映された虐待事件の解説から入りました。説明では石郷岡病院とのことですが、写真で見ると保護室は、かなり劣悪な環境に見えましたが、拘置所どころか、刑務所の保護室でもこんなにひどくありません。

さらに説明では、暴行を受けた患者が、半身不随になり、寝たきりになった結果、約2か月後に死亡したとのことでした。

要するに戦後の長い間、精神医療は劣悪な環境の中、患者の人権は置き去りにされたままという側面があつたといふことは否定できないということです。話のキリのいいところではなかったのですが中座。

15:40～16:45 分科会8 グループワーク アディクション・家族会

特に注目しているのは医療と福祉の一体化です。精神科医、精神保健福祉士、臨床心理士、相談支援専門員、職業支援、生活支援、ヘルパーetc.:専門性が高く、従来はお互いの領域に踏み込まない暗黙の了解ができていて、それぞれにブラックボックスを持っている。そんな精神医療のイメージを持っていたのですが、医福一体化など、はたして実現できるだろうかと半信半疑ですが、他の講座を聞いてきた人から「愛媛県では精神病院の解体が始まっ

グループワークということでしたが、参加者で小グループをつくってディスカッション…という流れにはなりませんでした。いくつかの医療と福祉関係者による取り組みの発表という感じでした。



病院精神科 看護師が患者を踏みつけ
その後死亡
石郷岡病院（とされる）保護室での
暴行をとらえたテレビ番組のキャプチャ。

た！」という話を伺って、この講座でも大田区南晴病院の取り組みを発表するというので参加しました。

南晴病院は資料によるとそれほど大きな病院ではないのですが、医福一体化への努力みたいなものは感じられました。「小泉改革時代」に「特区」と称しているんな規制緩和を試験的に導入する自治体が続出したのですが、イタリアの精神保健法180号（いわゆるバザリア法）のような制度を導入しようという自治体は終ぞ聞いたことがありません。もし取り組みが本格的なものなら（愛媛の件もふくめて、これは画期的なことです。

10月14日（金）練馬文化センター

9:30～11:00 教育講演3 精神医学の過去・現在・未来

文化センターの小ホールを使って行われた講座で、大画面のスクリーンにレジュメをプロジェクターで投影しながら進めて行く展開なのですが、これまでの精神医療の歴史は、ほんとスペース八王子である程度学習会などで知っていました。こういう時に知識の蓄積が役に立つと思いました。医療従事者の立場からも、過去の精神医療とは、治療行為というよりも人権侵害で

はなかったかという自戒と反省は感じられたような気がします。果たして明るい未来は開けるのでしょうか。

11:10～12:30 障害者虐待防止セミナー 自分らしく生きられるために
冒頭からいきなりアンパンマンの話から入ったので、わかりやすかったです。虐待防止とは、「そんなのはいやだ」から始まるというのわかりやすく、共感しやすい導入でした。「愛と勇気だけが友だち」のアンパンマンが「何のために生まれて 何のために生きる」のかといった哲学的なテーマに踏み込まなかったのは残念でしたが。

講座は現場からの話、当事者の話と続きました。前日の劣悪な病院の保護室での暴行事件のようなところだけで虐待がおきているわけではないということ。虐待は環境的な側面、制度的な側面、人為的要因などさまざまな要素が複合的に絡まって起きるので



参加者撮影による
練馬区民文化センター
小ホール内。

す。犯人を捜して罰するというだけでは根本的な解決にはならないのです。原因の分析と傾向にそった対策が必要になってくるでしょう。

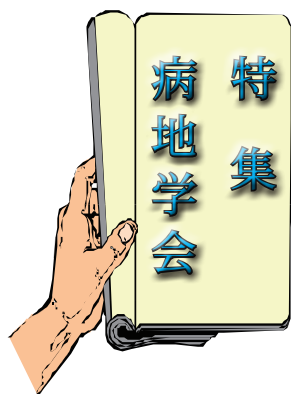


「あの」宇都宮病院といえば、
この病院です。
事件は今や昔なんでしょう。

13:30～15:30 シンポジウムV 病院・地域精神医学の進むべき道

各方面、各病院、各事業所、各自治体それぞれに取り組んでいることもさまざま、中には精神病院開放（解体）といった大胆な取り組みをしているところまであるという事実には驚きました。自分のイメージとして、こういったイベントの締めめのセシモニーは割と丁丁発止で終わると思っていたのですが、（15:30からそういった閉会式はちゃんとありました）

イベント後も三々五々、小グループに分かれて話し合う参加者もあちこちに見受けられました。「ほっとスパー



ス八王子」は、精神福祉の団体として、今後どのような社会貢献ができるか、明るい未来を考えることができればと思います。

追記

みんな最後は疲れ気味でしたが、殆どの参加者は最後までよく講座を受講したと思います。参加者各々、何かしら収穫なり学んだことなりあったと思います。初日の17:30から、相模原「やまゆり園事件」のディスカッションというグループワークだかがあったというところでしたが、後から報告を聞いて、「自分も参加すればよかったかな」と少し思ったのは内緒です。このレポートを書くにあたって、他にも精神医学界の学術的会合はいくつかあることに気が付きました。

日本精神神経学会主催の日本精神神経学会学術総会（112回）になりまして、や、日本精神科病院協会主催の日本精神科医学会学術大会（2016年で5回目）、日本総合病院精神医学



京都新生十全会東山老年サナトリウム。
かつて精神科だったせいか、まるで要塞みたい。

会（総会は29回）などさまざまな団体がやっているみたいです。（なんとなく敷居が高そうでとつきにくそうですが）それと気になったのは会場で配布されたパンフレットです。

何気なしに後ろのページからめくって見たところ、ありました。製薬会社の広告。ファイザー、エーザイ、三井などおなじみの企業があって当たり前のように広告に収まっています。やっぱりまだまだこういったイベントと製薬会社との関係は不可分なんだということを実感させられます。自分としては、薬物療法を否定するものではありませんが、投薬万能主義というのにも疑問を持っています。最後に。筆者は座って講義を聴くのがとても大変です。いつも途中で眠ってしまいます。

ストンと落ちるような感じで寝てしまうので、自分でも眠らないようにするのは大変です。自己管理の問題と言われればそれまでですが、自分にとっては何れも大変なことなのです。イライラしたり、すごく不安に襲われたり、眠れなかったり、眠りが浅かったり、今では眠剤（睡眠薬）を飲んだら横になっけないと座ったまま寝てしまうことが多くなっています。

それが原因で背中を痛めたこともありました。不覚にも眠ってしまったとき、起こされるにしても、自分で起きるにしても、いつも申し訳ない思いでいっぱいになってしまいます。そこだけは理解してほしいいつも思っています。（ア）

日本病院・地域精神 医学会総会 練馬大会

「今、変えていく勇氣」

「病院を問い直し 地域を耕し 当事者と共に生きる社会を創ろう」

彩日子

会期2016年10月13日（木）・14日（金）

会場 練馬文化センター／区民・産業プラザ Cooneriホール

●シンポジウム

「精神病院を問い直す」

病院のやるべき、あるいはやるべきでない仕事を、地域の実情の中で考える。具体的には、都内の練馬地域を取りあげ、精神科病院から、ポリシー、当該地域また東京都内での自己像や自院の役割についてどう考えているか、今後の展開などを語ってもらう。それに対して病院外（地域の活動、当事者）から病院に対して突っ込んでもらう。

↓シンポジスト

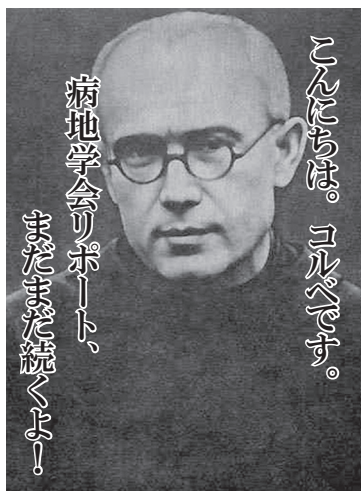
陽和病院院長 分島徹
慈雲堂病院の看護師 小山明美、
こらーるたいとう 加藤真規子

日本カナダ国際精神保健交流協議会
富山明雄（当事者）

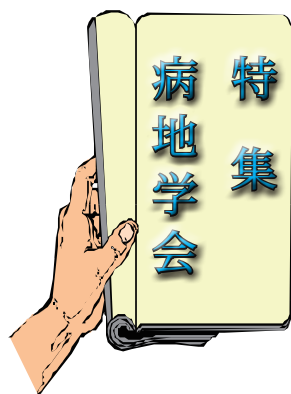
へ感想へ

病院を問い直す、というテーマで

こんにちは。コルベです。



病地学会リポート、
まだまだ続くよ！



●夜間交流集会 「精神医療・福祉の現状を問う」

あったのにも関わらず、病院批判は一切出てこなかった。こうするたいとうの加藤さんはほっとスペースでも運動での関わりがあったと以前聞き期待していたのだが、一切の病院批判は出てこなかった。彼女は壇上で何を話してきたのか？当事者の立場からは何一つ語らず、病院にはお世話になっていると繰り返し語る、この人は何がしたいのか？実際に陽和病院は、地域移行の取り組みを何もしていない。病院解体などとする気もない。慈雲堂病院は、グループホームをいくつも作り患者の抱え込みをしている。日本カナダ交流協議会の当事者は、はっきりと「僕は病院批判はしたくない」と言い切った。なんのための学会？怖いものなしの堀部さんがいたら、当事者として壇上で立派に批判してくれたのではないのでしょうか？いらっしやらなかったのが残念でなりません。

Part 14

一羽が病気になるたり、傷ついたり、打ち落とされたりしたとき、二羽が編隊を離れてその鳥の後を追って行き、その鳥を助けたり守ったりします。二羽はその鳥が再び飛べるようになるか、あるいは死ぬまでいっしょにいます。そして、その鳥たちは自らの道に乗りだして他の編隊に入るなり、群れに追い付くなりするのです。(カナダ雁の教訓牌文より抜粋)

夜間交流集会は、13年にわたり開催され、現場の思いや悩みを専門家も当事者もお互いの立場の中から自由に、ざくばらんに語り合う貴重な会である。今回は、「やまゆり園事件」をテーマに様々に語りあうということになった。

へ感想へ

まず、「やまゆり園事件」において討論の中で多くの人が語っていたのが「社会病理」という考え方であった。この事件は現代社会の歪みとしてとらえる視点が必要である。ほっとスペースでは、会員のKさんが一人だけ参加してくれた。Kさんは「自分は某教団の人間である」と発表したうえで、「某教団内では、内部の批判がで

い」と語ってくれた。つまり、彼の内側にある内在化された差別の問題である。「皆が平等であり、上下関係はない」という建前と、「現実には障害者は生産過程から締め出され排除されている」という明らかに矛盾する2つの規範。どこに彼らの居場所があるのか？しかし、それは障害者だけの問題ではない。今や5割近くの人間が非正規雇用である。すべては個人の自己責任だという考えで社会保障は削られ、家庭も教育に投資できない。個人主義が蔓延し再生産の仕組みは崩壊されている。「自分は特別な人間だ」という若者は現代の資本主義社会の「自己実現」という幻想のもとで、たくさん

の障害者を殺した。社会の矛盾・疎外や排除の問題は、資本主義の批判なしに語れない問題である。

●地域移行・地域支援

「南晴病院の当事者会・家族の歩み へ第1報」当事者・家族が参加する支援について考える

↓大石真明(PSW) 医療法人財団 鷗の木会 南晴病院

「地域に必要とされる病院になるためには何をすればよいのだろうか？」という問いから「当事者やご家族の声を聞こう」と、わずか3年〜4年前から

ではあるが当事者会と家族会を立ち上げた。本報告はその取り組みを通じた現状のまとめである。

へ感想へ

大田区の精神医療福祉の新たなビジョンは、画期的なものです。家族会、病院、地域活動支援センター等の様々な機関がネットワークを作り、行政と協力して医療と福祉を含めた精神保健福祉センターを作ろうというものです。大田区は、そのプロジェクトの為に約1000平米の気象庁跡地を買い上げました。そこではトリエステのバザリア法にみられる精神保健センターのように精神保健の公的システムの抜本的な改革が試みられようとしています。

大田区にある南晴病院は、病院の城



医福一体改革の取り組み…地域共生…
大田区南晴病院の挑戦は始まったばかり。

なっていくのではないだろうか。

この試みは、具体的な政策はまだ発表されていません。しかし、時代遅れの日本の精神保健福祉の世界に風穴をあける試みではないでしょうか。当事者の団体はまだ加わっていませんが、これからはさまざまな関係機関の誘致に向かうでしょう。大田区の取り組みを学ぶことは、私たちほっとスペース



八王子にとって、またこれからの精神医療福祉の改革を考えていく上でとても重要になってくると思います。

特集 聞こう会

釣りバカ日誌が大好きです

UFO

今回は、前の会社で、東北の青森、秋田に旅行に行った話をしました。

東北は、景色も最高だし、食べ物もおいしかったし、りんごもおいしかったです。

とわだ 十和田湖にも行きましたが、景色も最高に良かったです。

また旅行に行ける时候があれば、東北に行ってみたいと思いました。

好きな映画は、「男はつらいよ」と

「釣りバカ日誌」が好きです。「男はつらいよ」は、妹のさくらがいる実家で留守中の寅さんの噂話をしている最中に、寅さん本人がふらっと帰ってくるところが面白いです。「男はつらいよ」は、毎年、お正月に母と映画館で見ました。

「釣りバカ日誌」も同様です。「釣

りバカ日誌」は、西田敏行扮する浜ちゃん、奥さんと水入らずのところに三國連太郎扮する社長が入ってきて台無しになるのが面白いです。また、同じ

く床のシーンで浜ちゃんが鼻血を出したりして面白かったです。

東北で気分転換したい

F・H

東北へ行って心をきれいにしたいし、一人旅もいいと思いました。東北の澄んだ空気と海を見たいです。

最近、集中力がなかったので映画も途中で飽きてしまいます。

タイタニックは有名ですが見たことがあります。

たまには人の話を聞くのもいい

しげっち

みんなのいろんな話が聴けて楽しかったです。人それぞれ違うんだなあと思いました。

スターウォーズが好きです。ブルース・リーの映画も好きです。

気分が明るくなった

キャロル

聞こう会は、何をテーマにしてどんな話をみんなに聞いてもらうか、というプログラムで、タイトルが一新され、東北で行ってみたい所というのと、好

きな映画は何かというテーマで、みんなが輪になって、おしゃべりして自分の番が来ると、緊張してしまったのですが、頑張って話をしてみんなに聞いてもらいました。気分も明るくなって楽しかったです。

またやりたいと思いました。

聞こう会についての感想

H・I

今日の聞こう会は、東北に行くとしたらどこへ行きたい？と、好きな映画についてでした。

東北は良く行く所なのでいろいろ好きです。大間のマグロや郷土料理のじゃっぱ汁（青森）やきりたんぼ鍋（秋田）、牛タン（宮城）の話をしました。その時、言い間違えてましたが平泉とかも行ってみたいです。私は秋田や岩手側の海岸線が好きです。青池や寒風山（かんぷうさん）はお気に入りなので、しょっちゅう行ってます。

好きな映画については、アクション、感動映画が好きですが、ミッシェンインポッシブルやボーンシリーズ、タイタニック等はいつも言っているの、三丁目の夕日やジャッキーチェンの映画などが好きだという話をしました。

聞こう会についての感想

H・I

今日の聞こう会は、東北に行くとしたらどこへ行きたい？と、好きな映画についてでした。

東北は良く行く所なのでいろいろ好きです。大間のマグロや郷土料理のじゃっぱ汁（青森）やきりたんぼ鍋（秋田）、牛タン（宮城）の話をしました。その時、言いませんでしたが平泉とかも行ってみたいですね。私は秋田や岩手側の海岸線が好きです。青池や寒風山（かんぷうざん）はお気に入りなので、しょっちゅう行ってます。

好きな映画については、アクション、感動映画が好きですが、ミッシェンインポッシブルやボーンシリーズ、タイ

タニック等はいつも言っているので、三丁目の夕日やジャッキーチェンの映画などが好きだという話をしました。

2016年11月1日 聞こう会

bamboo

本日の聞こう会では、行ってみたい東北地方と好きな映画に関する話をしました。

東北地方に関する話では、皆さんのお話を聞いて、きりたんぼ鍋やじゃっぱ汁などの郷土料理を現地で食べて、思い出として残しておきたいです。また、観光名所もたくさんあるといった話を聞くことができたので、良かったと思います。

また、好きな映画のコーナーでは、様々なジャンルのもがあると同時に、一生ではなかなか観きれないほど多くあると感じました。また、休みの日を使って息抜きに新作の映画を観に行きたいと思いました。

東北は行ったことがないので行ってみたい

リネカー

聞こう会の感想は、自分の好きな映画について、話せたことです。



編集者は東北で美味しいもの
といったら「いぶりがっこ」ですね。

自分が感銘を受けた「典子は、今」という映画について感想を述べられたことが良かったと思いました。

また、東北地方についての話になった事は、余りなじみもなく、行った事もない所なので、皆さんの話を聞けて参考になりました。

そして、改めて東北地方へ行きたいと思いました。

私は普段は東京に住んでいるので、地方もいいのかなど、思いました。そしていつか機会があれば、行ってみたいと思いました。

今回の聞こう会は参加してとても良かった、と思いました。

聞こう会を終えて

山海珍味

久しぶりの聞こう会だった。今回の

お題は「東北で行きたいところ」と「見たい映画」の二本だった。

東北で行きたいところについては、青森へ行って、大間のマグロを食したが、旬を逃すとまずかったという体験談だ。あの有名な大間のマグロも旬を逃すとただのスーパで売っているマグロになってしまふとは……。

一つ勉強になりました。

お題の二つ目である「見たい映画」についてだが、人それぞれ、好みの映画があるのがわかっておもしろかった。やはりアクション映画や、感動物語が人気があった。

自分のところでは、SF系や、マイナーな自主上映の映画が好みではあるのだが、この話ではあまり盛り上がりなかったように思う。

いま観たい映画はではパラマハンサ・ヨガナンダの自伝映画を挙げたが、知っている人はほとんどいないようだった。

少し残念ではある。



みんな大好きジャッキー・チェン（成龍）。
写真は酔拳の一場面。

日々雑感

スペシャル

富士森体育館

スポーツジムの紹介

UFO

私は、毎週日曜日に、富士森体育館（旧・市民体育館）まで歩いていきます。私の場合は、愛の手帳と、トレーニング登録証を提出すれば、ジムが無料で利用できます。

いろんな器具があつて、いろんなトレーニングができます。私は、有酸素運動を20分やり、お腹を鍛える運動をしたり、脚を伸ばしたり、だいたい三種類の器具を使ったトレーニングをしています。

これから先も、毎週土曜日から日曜日の午前中、ジムに通いたいと思います。

（2016年）10月29日土曜日

チャリティバザー

UFO

八王子市大横町セシモアつくばで、毎年恒例の10円チャリティが開催され

ました。

お砂糖、お醤油、花の苗などが10円です。私は、朝9時30分から、10時までに30分並んで10円の商品全種類を買いました。チャリティは、2部制になっていて、午後は1時からでした。また12時30分から並んで、午前中と同じものを買いました。終わる前にもう一回、買い物をしました。

毎週日曜日の

夕方の楽しみ

UFO

私は、毎週日曜日の夕方、笑点というテレビ番組を観ています。

桂歌丸さんの司会はたいへん面白かったです。新しく春風亭昇太さんに司会が代わっても、楽しいやら面白いやらで、必ず毎週日曜日は、笑点メンバーの発言がまた、面白くもあり、楽しいです。

笑点は、昔は40分番組だったんですが、いつの間にか30分番組になっていました。前半は、コントや演芸で、後

半は大喜利をやっています。

テレビを観ていると、新司会の春風亭昇太さんの発言、座布団を取るタイミング、座布団を差し上げるタイミングが面白いし楽しいです。これからも、日曜日のテレビ番組は笑点が楽しみに見ていきたいと思います。

あとは林家たい平さんの、ふなっしーのものまねをする場面が面白いです。木久扇さんの「いやんばかん」な感じ、小遊三さんの刑務所の話や自動販売機の下から小銭を拾う話、福山雅治ばなしがおもしろいです。

（六代目）圓楽さんと、好楽さんは、貧乏話が面白いです。（二代目）三平さんは、これからかなと思います。

しあわせと座布団を運び、座布団運びの山田くんも面白いです。笑点のあとにはちびまる子ちゃんとサザエさんを観ています。

年末年始に食べたい料理

UFO

私は、毎年八幡町の藪そばで、年越しそばを買って紅白歌合戦を観ながら食べています。

昨年（2015年）はほっとスペースス八王子で紅白を観ながら年越しそばを食べて、また今年（2016年）

も、同じように過ごしたいと思います。

2016年を振り返ると、この年の11月で、満4年になります。つい昨年ほっとスペースス八王子で紅白を観ながらカウントダウンパーティーをしたと思っていたら、今年ももう、あと少しで終わります。1年はあつという間で終わると思いました。

年が明けたら、お節料理を食べます。近所のまるさ屋というお店で、ちょうど一人前のおせちセットが売っていて、値段も1000円でお手頃です。一人前1000円のおせちといっても、かまぼこ、だて巻き、栗きんとん、田作り、黒豆などが入っていて、美味しいです。それから自分でお雑煮を作って食べます。年末年始はそれが楽しみです。

私が、初めてカレーを作ったのは、小学校1年生の頃になります。父も母も、美味しいとほめてくれました。

カレーライス、思い出の料理

UFO



謎の年越しそば。どの辺が謎かというと、なぜかエビフライが載っている。

それから
は、ちょ
くちょ
くカレー
を作りま
した。カ
レーを煮
込んでい
るところ
に、トマ
トと、ウ
ス
ター
ソースを
入れると
、コクあ
る美味し
いカレー
が作れます。



カレーライス。
写真のはかなり
インドっぽい。米長いし。

ほかに思い出の料理といえば、手作りのポテトサラダと、餃子です。餃子の皮は、グルメシティ(注)で買ってきますが、餃子の餡とポテトサラダは手作りです。親戚が集まる日には、私がポテトサラダを作ります。親戚のおじさんもおばさんものぶちゃんを作る料理はおいしいと言ってくれました。とてもいい思い出の料理です。

休日の過ごし方

山口咲子

私の休日の過ごし方は、朝5時ごろ起きて、朝食を摂り、6時30分から近くの公園でラジオ体操をすることです。天気が悪かったらダメですが、曇りか晴れたらラジオ体操をします。

その後は部屋でのんびりとコロコロしています。

医者が嫌い

山口咲子

私は病院が嫌いだ。歯医者さんに行けば歯を全部抜かれて入れ歯にされるし、精神科行けば、いつも同じ薬を出されて2時間待ちだし、とにかく嫌いだ。11時までに病院へ行つて、受診は1時半頃で3分ほどの問診でおしまいになってしまつて、とにかく嫌いだ。月に1回で、交通費はかかるし面倒くさい。

大馬所持 高樹沙耶容疑者逮捕を聞いて

10月27日 蓮華

私は大麻の事について詳しい知識はありませんが、選挙の時に医療用大麻について解禁を公約に掲げられていたので、当然警察に目をつけられるだろうなとは思っていました。

医者の方も、医療用はないとおっしゃられている方も居ますし、真実はわかりませんが、法律に反することは、捕まってしまうので、そこいらへんの判断が大麻によって鈍っていたのでしょうか？

ナチュラリストとして、草を勉強していくうちに、男性の影響で、悪い方へ行ってしまったのかなと思います。

テレビのドラマ等で拝見させて頂いたので、残念に思います。他にも訴えられた方も居たので動向を見守りたいです。どんなに自分の主張が正しくても、国の法律を破れば、捕まります。今回の参議院選挙は、法を犯す方が多かった気がします。自分が身を置く



やまゆり園について

猫

優生思想は今に始まった訳ではない。支配者にとって都合の良い思想だからだ。

産まれおちてから、私たちは洗脳されてゆく。支配者にとって都合の良い考え方に染まってゆく。裕福な人々はよく働く有能な(?)ロボットのように被支配者をもってゆく。稼いで金品を生み出している人が優れており、障がい者や、老人などは



大麻草。よく見ると、
その辺に生えている草とは
違って見えます。

環境を選ぶ事は重要だと思っています。大麻はまだ安全性が確認されていないみたいです。

劣っているか、邪魔な部品だと考えている。不況になるとその考え方が顕著になる。人が物扱いである。やまゆり園の事件は犯罪者も機械のように使い捨てされる処遇だったので、は？

誰にでも洗脳されている優生思想が剥き出しになった。人々は人間はモノではないといいつつ、どこかで自分達の扱われ方が身に付いて、人は機械か何かの本音なのではないかと優生思想にハマってゆく。自分を肯定する為に他人を劣っていると考えるようになるの

だ。自分は有能なんだ、扱われ方がどうであろう、障がい者や老人に比べて有能なんだ。足を引っ張っているのは障がい者や老人なんだ。自分が不当な扱われ方しているのはそいつらが存在しているからだと考えたのだろう。これは私の私感である。

人間が大切にされない社会に健全な思想があるはずもない。この洗脳に抗う、人間が大切にされないのはおかしいという人は少数派だろう。麻痺している社会だ。人間が金品を生み出し儲ける為だけに産まれた訳ではない。でも現実ではそうなるようになって身動き出来ない。理想論としてしか人権が機能しない。そんな社会を内側から変えないと優生思想はなくなるならない。人間はモノではない、生きた人間なのだ。生々しく活動し考えそのままを存在を大切にされないといけない。そこからだ。

秋葉原無差別通り魔事件

キャロル

事件概要

2008年6月8日12時30分過ぎ、東京都千代田区外神田4丁目の神田明神通りが交わる交差点で、元自動車工場派遣社員の加藤智大（当時25）が運



2008年6月8日事件直後の秋葉原交差点歩行者天国の空撮。

加藤死刑囚は、2トトラックで歩行者天国に突入、5人をはねた。（写真はイメージです）



転する2トトラックが秋葉原歩行者天国西側の神田明神下交差点方面から東に向かい、中央通りとの交差点に設置されていた赤信号を無視して突入、青信号を横断中の歩行者5人を撥ね飛ばした（注1）。

このトラックは交差点を過ぎて対向車線で信号待ちをしていたタクシーと接触して停車。周囲にいた人々は最初は接触事故だと思っていたが、トラックを運転していた加藤は車を降りた後、道路に倒れ込む被害者の救護に駆け付けた通行者、警察官らを所持していた両刃のサバイバルナイフで立て続けに斬りつけ、あるいは刺した（注2）。さらに、加藤は奇声を挙げながら周囲の通行者を次々に刺して逃走。歩行者天国はパニックに陥った。（注3）

事件発生後間もなくして近くの万世橋警察署秋葉原交番から駆け付けた警



学習会では取り上げなかったけれども、下関で、池袋で、土浦で、仙台で...etc 無差別殺傷事件はおきました。いずれ勉強することもあるかもしれません。（写真は仙台アーケード暴走事件）

察官が加藤を追跡して警棒で応戦、最後には拳銃の銃口を加藤に向けダガーを捨てようとした。警告し、応じなければ発砲することを警告した。それに応じた加藤を非番でたまたま居合わせた蔵前警察署の警察官と共に取り押さえ、旧サトムセン本店脇の路地で現行犯逮捕にて身柄を確保した。ここまでおよそ10分間あまりの出来事だった。

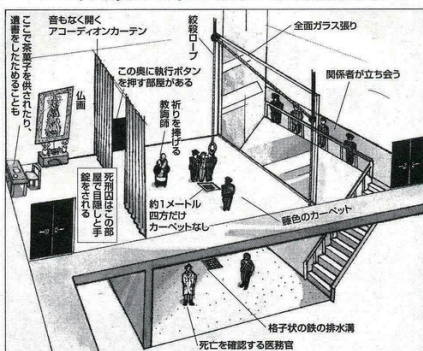
逮捕後加藤は身柄を送検されるが、犯罪史でもまれな大量殺人という異常事態により慎重に取り調べの結果、3ヶ月の精神鑑定留置となった。精神鑑定の結果、刑事責任能力ありとされ、同年10月起訴、公判前整理手続きを経て、2010年1月28日、初公判。翌年3月24日東京地裁は加藤に死刑判決、2015年2月17日死刑確定。直接的な動機として、インターネット掲示板（加藤個人のものを）を荒らし

た事による抗議、根本的な要因として不満に対して多様な観点から熟慮せず、話し合いで解決しようとせず、自分の意思を相手に分からせるために、直接的行動で相手の望まないことをしたり、相手との関係を遮断したり、暴力を行使する考え方、間接的な原因として母の養育方法が加藤の人格形成に影響を与えたとされている。ただ、仕事をしていたころから「死にたい」と何度も漏らしていたことや、拘留中に書いた著書（注4）の記述などから、「自殺の代替手段としての死刑（代理自殺）」という見方も多い。

感想など

7月26日に起こった「やまゆり園事件」について勉強会をするために、過去の事件を調べることにあって、僕は「秋葉原無差別通り魔事件」につい

東京拘置所の刑場図





「責任能力」の有無を分かつものは何だろう。

て調べることになりました。インターネットから情報を集めて、事件について書きました。この事件そのものが、法律や国の制度を大きく変えたわけはありませんが、影響は大きかったと思います。

勉強会で、派遣労働の問題とか、一種の「生きにくさ」が背景にあるのではないかという意見がありました。この事件が起きてから8年になりましたが、僕の記憶では3年前くらいのこと、僕の最近の事件だという印象がありました。僕は、8年前の6月のことは、あまりよく覚えていません。ただこの事件の事は覚えていて、それがとてもひどい事件だったことも覚えています。ただ、いつごろか詳しく覚えていませんでした。

僕は、この加藤智大が、成長してく過程、働いていた時、いろんな場面で、もう少しなんとかならなかったか、事

件が防げないか、と想ったりしました。事件を見たり聞いたりしていると、とても残念です。

でも、勉強会をすることで、この事件の事を思い出すこともできたので、ためになりました。

注1…トラックは静岡県内で借りたレンタカーで、この衝突により3人が死亡、2人が負傷した。

注2…加藤は福井県内のサバイバルシヨップなどでナイフを買い求め、刃物5本にハンマーを用意していた。

加藤が警察に包囲されるまで12人に斬りつけ、4人が死亡、8人が重軽傷を負った。

注3…動画サイトなどに、逃げ惑う歩行者たちの様子がアップされている。結局この一連の凶行により、7人が死亡、10人が重軽傷を負った。

注4…「解」「解十」「東拘永夜抄」「殺人予防」の4冊を著した。

機関誌「ほっと」のバックナンバー124号に、この秋葉原無差別通り魔事件についての特集がありました。記事中には、被害者遺族からの御寄稿もあり、非常に読み応えのある内容となっています。機会がありましたら、再掲したいと思います。（編集部）

原稿募集

久しぶりで原稿募集です。ここ何号かは、会員の投稿が充実していて、掲載しきれない分は次号に繰り越していることもできました。（誌面は、郵送料金の関係でA4「A3の二つ折り」で20ページまでという）制約もあり、1号につき掲載できる記事には制限があります。ですが、投稿いただいた原稿は、必ず掲載します。万が一掲載できない場合はその根拠を提示します。

次号予告

次号予告のフォントはやっぱりHG明朝Eがしっくりきますね（エヴァンゲリオンの見すぎという話も）。それはさておき、次号予告です。特集記事としては、カフカ「変身」を読んでの感想ではなく、想像力を問う作文を掲載する予定です。他には、刑事手続きに関すること（できれば医療観察法も含めた）、その他日常のちょっとした出来事なんかを掲載できればと思います。また、アメリカのドナルド・トランプ大統領と欧州の国際的な政治傾向、シリア、スーダン、ウクライナ、南シナ海などの国際紛争、都政、組織的犯罪の共謀罪などといった社会的なテーマで特集できればと思っています。相模原の「津久井やまゆり園事件」については、随時取り上げていく予定です。今号でカレーの話題があったので、個人（孫悟）的には、またカレーの話でも書きたいなと思ったりもしています。ですが、とりあえずあくまで予定は未定です。（編集部）

編集後記

と、いうことで絶賛原稿募集いたします。論文、書評、随筆、詩、短歌、俳句、映画評、イラスト、CG、楽譜、写真その他諸々：ジャンル、思想、所属、国籍、年齢性別一切問いません。投稿にあたってのルールは、過度の性的、暴力的、差別的表現、個人情報、名誉棄損又は侮辱に相当する文言を含む投稿は禁止します。その際、どこが問題かも提示します。とりわけ、相模原「やまゆり園」事件については随時受け付けております。よろしく願います。（編集部）

▼お待たせいたしました。第156号の発行になります。155号の発行が2016年の11月、今号の特集病地学会が2016年の10月という時系列を鑑みて、病地学会の記事は155号には間に合いませんでした。また、編集者の体調によって、発行間隔にばらつきが生じてしまっています。申し訳ありません。

▼集まった会員の原稿を見ていると、少しずつ文章力がついてきている、そんな実感がわいてきます。文章力をつけることも大事な訓練です。今後も期待しています。

▼156号が出てほぐれれば、まもなく年度が替わります。年度末から年度明け5月には総会が行われます。ほっとスペース八王子（おもに職員が）にとつて一番忙しい時期に入りますが、一層かわらぬごひいきをお願い致します。では、次号もご期待くださいますよう。（編集部）